

生活文化常任委員会議会報告会実施報告書

開催日時	平成30年1月22日(月) 15時～17時	
開催場所	明石市役所 議会棟2階 大会議室	
テーマ	明石市の環境問題について	
出席議員	委員長	佐々木敏
	司会者	寺井吉広
	記録者	松井久美子
	その他	丸谷聡子 楠本美紀 大西洋紀 井藤圭湊(以上、生活文化常任委員) 永井俊作 穂原成人(以上、議会活性化推進委員)
参加人数	エコウイングあかし 6名	
傍聴人数	6名	
報告内容	<p>○議会報告</p> <p>① 「資源ごみの持ち去りの禁止について」 楠本委員</p> <p>② 「ごみの減量化について」 大西委員</p> <p>○活動報告</p> <p>(1)エコウイングあかし(エネルギーグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオン明石環境イベントを開催(年3回程度)。エコドライブのドライブシミュレーターを出展。子ども達には「光でうごくおもちゃ展示」を通して太陽光がエネルギーになることなどを普及。 ・「エコドライブかんたんマニュアル」を作成し、東播自動車学校等で実際に車を運転し、エコドライブの体験・啓発など。 ・2017年以降の取り組みとして、再生可能エネルギーの地産地消を目指して、先に取り組みされていたエネルギー地産地消あかし地域協議会のメンバーと共同でセミナー開催や先進地の視察等を通して研究している。 <p>(2)エコウイングあかし(自然グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明石のため池、海岸、田園、里山の生物多様性をキーワードとした保全活動など。昔は落ち葉を燃料や肥料にするなど里山の恩恵で暮らしていたが、昭和30～40年にガス・石油・電気が普及したことで里山が放置され、雑木林、竹林になった。そこで昔の里山に戻そうという活動を金ヶ崎公園で行っている。また、昆虫の調査観察も行っている(原則、毎月第1土曜日実施)。 ・金ヶ崎公園で、夏でもないのに樹木が枯れてきているナラ枯れ病を発見し、市を通して県に相談し、対策をしてもらっているが心配だ。 ・環境体験事業のサポートも行っている。谷八木小学校では、アマモを中心とした海の生態系についての学習。藤江小学校では、外来生物が生物多様性に及ぼす影響や絶滅危惧種の保護活動。高丘小学校では、地域のため池のかいぼり体験等。 ・あかし市民自然図鑑(野鳥)づくりに向けた野鳥観察会(日本野鳥の会ひょうご協働実施)。 ・生物多様性あかし戦略推進会議を開催。 	

<p>主な意見・提 言・要望と応答</p>	<p>意見交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楠本委員：エコウイングあかしが明石の自然を底辺から支えてくださっていることが理解できた。明石には山がないのは残念だが、明石の自然は好きである。明石市内の明石川は河口しかないが、生物の観察は行っているか。 ・エコウイングあかし：エコウイングあかしでは調査は行っていないが、市が調査している。明石川のすぐ北側は神戸市で、2本に分れていることから神戸市と連携するなかで、明石川にどのような生き物がいるかもわかってくると思う。 ・佐々木委員長：エコドライブに関連して、高齢者マークを目の敵にするような「あおり運転」を市として何とかできないのかとの本会議質問を行った。信号のない横断歩道では、歩行者がいたら必ず車を止めようと訴えても止まらない。思いやり運転は大切で、ガソリン代も助かるし、事故も防げる。環境問題は社会問題にもつながるのではないかと。エコドライブに関連して、思いやり運転などについてどのようにお考えか。 ・エコウイングあかし：エコドライブは、行先の状況判断が必要で、信号の2つ3つ先を見ておかないとできない。ガソリン代が助かるという面だけでなく、安全につながる上、環境にも寄与する。エコドライブも思いやり運転もほぼ同じであると思うが、あおり運転は全く正反対である。横断歩道で止まることはあたり前である。 ・エコウイングあかし：食品ロスではコープこうべが積極的な取り組みをしている。NPOのフードバンク関西、フードドライブなど神戸市でかなり積極的に動いており、加古川市も市全体の中で動き出しているようだ。食品ロスを減らすことで燃やすごみを減らすことができCO2削減にもなる上、エネルギーにも関連してくるので、非常に大きなことだと訴えている。市内にはコープこうべの店舗もあるので、市とエコウイングと議員で、新しい仕組みができればと思う。 分別回収をしていた頃は市民の意識も高かったが、何でも燃やせるようになったので意識も低くなった。「もったいない」という意識を全市上げて取り組めたら良いと思う。 もう一点、自然について、委員から明石には山がないと言われたが、幸いなことに緑地は、金ヶ崎公園、松陰新田の広大な森、明石公園がある。最近危惧していることは、ため池がどんどん宅地に変わっている。松陰新田も歯抜けになっている。生物多様性あかし戦略に明記されている希少な生き物がいるので、子どもの時から環境学習で体験することは重要で、兵庫県の命の教育にもつながるものがある。テクノポリス構想なども聞こえてくるが、子どもが健やかに過ごせる環境をキープするのが我々の役割である。いろんなところでご協力を頂ければ幸いである。松陰新田は、森や池があり最後の秘境のようなものである。 ・松井委員：食品ロスの削減については、平成28年9月の本会議質問で取り上げたが、少し遅れていると私も思っている。加古川市では議員が頑張っていることで、政策的に進んでいる。食品ロスの問題は進めていかなければならないと思っており、ごもっともである。 事業系と家庭系のごみが半々と言われている中で、現状に対して議会として関わっていききたい。学校給食の食べ残しも気になっており質問をした。フードバンクについても市に見解を聞いた。 知人がコンビニ経営をしており、弁当を廃棄するのを目の当たりにした。近所の
---------------------------	--

方もケーキ屋に勤務しており残ったケーキは全部廃棄されると聞いて、とてももったいないと思う。国の方でも力を入れており、もっと柔軟性を持って取り組むべきである。困っている方もおり、全部焼却するのもどうかと思う。今後力を入れたい。

松陰新田は、行政、エコウイングと議会も緑を残すように努めていく。ところで、東京は都会なのに森とか緑が多く整備されている。明石も貴重な生態系を残せるよう頑張りたい。

- ・寺井委員：食品ロスについて、明石市はこども食堂を各校区に最低1か所以上に広げようとしており、コープこうべに食材を提供してもらったりしている。明石としてもできるだけ食品ロスを減らしていきたい。

自然環境では、私は江井ヶ島で生まれ、江井ヶ島の海、金ヶ崎公園で虫取りをしてきた。昆虫の調査をされているようだが、昔とは変わったか。

- ・エコウイングあかし：昆虫は大幅に減ってきている。特にクワガタなどの売れるものがすごく減っている。子どもは問題ないが、夏の夜には業者やセミプロが採りにくる。どこからでも入って来られるのでどうしようもない。

- ・丸谷委員：明石市は平成22年度に生物多様性あかし戦略を作った。全国でも早い取り組みで、生物多様性を大事にしたまちづくりの意思表示をしてきたが、具体的な戦略ができていなかった。私はこれを進めたくてこのような立場になった。一昨年から戦略推進会議が開かれ、たくさんの方の協力で明石の大切な生きものリスト、レッドリストもできるようになった。こういうのができたらもっと市民の方、議員の皆さんにも、明石の自然の大事な場所を知ってもらえる。松陰新田はまさしく秘境であり、あそこにはしかない生き物がたくさんいて、明石の宝として残していきたい。

子ども達の海の活動もされているが、魚が少なくなって海を守らないといけないという意見も議会を出ている。海を豊かにするという他の議員からの質問もあった。例えば、気仙沼の知り合いで、「森は海の恋人」と言われ、森を守らないと海を守れないと言われている方がいる。明石も海の生態系を守るため、数少ない里山を守っていかないといけないため、神戸市や三木市とも連携していきたい。私たちも頑張るので、エコウイングも引き続きご協力をお願いしたい。ボランティアで市民図鑑も作って頂き、すごく貴重なデータベースとなっているので。

- ・楠本委員：会派で3、4年前に、土地開発公社が解散するというので、市民と松陰新田へ塩漬けの土地を見に行った。行ってみると自然が残されており、私はこの土地はこのまま残していくのが一番良いのではと思った。開発せずに子ども達が自由に木に登れるとか、そういう経験が子どもには大切で、安全に遊べる場所を残していける方向で要望も出していきたい。

- ・エコウイングあかし：私が遭遇したのは、月1回小型家電の回収の日に回収業者がクリーンステーションで待っていて、私のごみから手を放すと業者から「もらえませんか」と言われたが、「あんたにやるために置いているのと違う」と言ったが、私が離れたら、トラックに乗せて走り去った。取り締まりは警察しかできないが、何とかならないのかなと。

- ・井藤委員：ごみの日に、数台のバイクで来て、中を見て何も欲しいものがなかったら元に戻す人がいる。「4月からあかんで」と言ったら、「わかってる」と。相手が

どんな人かわからないのでそこまでしか言えない。4月になったら条例が施行される。

里山整備だが、昔は木を切ったり薪を拾って風呂を沸かしたり米を炊いた。自然環境に寄与していたのかと思う。生活のための里山整備か、自然環境を大切にするための里山整備か。エコイングが子どもに自然の大切さを教えて頂くのは大変ありがたいと思う。

- ・エコウイングあかし：エネルギーの地産地消は何か。太陽光発電といえば、もうダメらしいとか儲からないとかの話がでるが、私は偏見だと思う。太陽光発電が普及したのは、固定価格買取制度（FIT）で、高い代金で買い取ってもらえるから広がった。大企業がしているのが今までの形だったが、私たちが今言っているエネルギーの地産地消は、売ることから離れ、FITから脱却し、自然エネルギーを使っていこうということ。再生可能エネルギーの意義は、化石燃料・石油を使わず、太陽光・川の流れ・海の潮流・地熱などの自然を使えばいいということ。CO₂も削減できる。それを進めていくと儲からないのではと思われるがメリットはある。明石市と市民が電力会社に払っている電気代は、年間何百億円ではきかないだろう。地元で作った電力を地元で使うメリットは大きい。先進地の福岡県みやま市では、雇用が生まれたり、一人暮らしの見回りなどの役に立ってる。

また、災害が起きた場合には復旧が早い。避難所になる学校の屋上で太陽光パネルがあればメリットがあるので、例えば明石市で作った電力を市内で使うような条例が作れないか。市役所に専門の部署を作ってはどうか。クリーンセンターや二見の人工島にある形式は、旧型で、土地だけ貸して明石市にメリットは少ないと思う。議員にもご協力いただきたい。

- ・佐々木委員長：議員からもしっかり訴えていきたい。お聞きした話の中で、得をする部分があることも議員として訴えていかなければならないと思う。災害時に電気があることは良いことなので、行政もしっかりと取り組んでいくべきである。
- ・エコウイングあかし：住民参加意識を啓発してほしい。なかなか個人のお金では足りない。そのため、地元の銀行、国とか県の融資・補助が重要であると思う。また、技術的アドバイスができる人が欲しい。例えば、屋根に太陽光パネルを置いたら、200万円かけたものが何年先に償却されますよというアドバイスができれば。さらに潮流を使った発電にも技術開発が必要で、高専、企業の技術系の方、経営等の方と協力しているが、市のバックアップがあれば進むのではないか。
- ・エコウイングあかし：まちづくりとリンクできないかと考えている。まちづくりに関わっているが、地域の人々の防災の意識が随分変わってきた。防災フェスタ・防災イベントでおいしいものを食べているだけだったが、自分たちが実際に体験しないとけないとか、まち協でも訓練と言い出した。災害時に避難所の学校に太陽光発電があれば温かい物が食べることができ、明るい場所で過ごせることが大きい。
- ・丸谷副委員長：防災の観点で、小中学校などの公共施設の屋根に太陽光パネルを置けないかと質問や意見をしてきた。しかし、学校の屋根にパネルを置く重量とか、回収する時に不便であると言われ、いい返事が聞けない。学校の他の場所に置くことができるかと聞いても答えてもらえない。何かいい提案があれば教えて欲しい。
- ・エコウイングあかし：私は建築の専門家ではないが、言い方が悪いがパネルを置か

	<p>ないための理由だと思う。だから、専門部署があればいいだろうと思う。メンテナンスのために人が上がるのは何ともないと言ってくれる。最初からネガティブなこと考えている気がする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松井委員：ドイツでは家に発電機を置いていているが、明石では難しいと思ってしまう。国では再生可能エネルギーを目指して研究をしていると思うので、議会としても委員会などで勉強をしていきたい。15年くらい前に潮流で発電する業者がいて、熱心に会派にも来られ、国会議員とも勉強会を開催した。でも流れがきつくて装置が流れてしまい、業者は倒産してしまった。とても熱心だったのに残念でならない。長期展望に立ってしっかりと勉強していきたい。 ・エコウイングあかし：潮流の話は、技術で解決できると思う。潮流ほど安定したものはない。 ・エコウイングあかし：私は徳島県出身である。50年前に山の公共用地を村民へ分け与えられ100人以上が開発したことで、サルが食べるものがなく里に下りてきて、干し柿等何でも食べて荒らされるようになった。シカ、タヌキ、クマも出てくるようになった。木も伐りっぱなしになったため地盤が弱く、大雨が降ると丸太ごと流れるようになった。地産地消もほどほどに、有効利用する方法を考えないといけないと思う。
--	--

明石市市議会議長 三好 宏 様

平成 30 年 2 月 8 日
上記のとおり報告します。

生活文化常任委員長 佐々木 敏